

すべては日本の未来を担う 子どもたちのために



eisu group

山本 千秋 代表

「デイビッド・セイン英語ジム」や「全国小・中学生学力カップ」など、かつてない新しい商品やサービスで、市場にオンリーワンのポジションを築く eisugroup。同質的な商品やサービスがあふれる民間教育界に、波紋を投ずるオンリーワン戦略の舞台裏、そして、山本千秋代表の教育観や人生観に迫る。

英語をマスターすることは目的ではなく手段

「『デイビッド・セイン英語ジム』をはじめたきっかけは何ですか。」

「これまで塾の英語教育は、受験英語が主体。受験用の一過性にすぎないものでした。でも、どんなに受験英語に強くても、いくらいい成績でいい大学を出たとしても、英会話ができなければグローバル社会では通用しません。」

日本人は、国際貢献をする以前に、英会話ができないことで世界に遅れをとっています。ハンデが言語であるという国は、日本くらいのもので、それでは日本や日本人の良さも伝わらず、これからの人生にマイナスです。」

「英語が話せる人材」を未来に残さなければ、日本はどうなるのだろうか。そう悩

み、eisuのこれまでの英語教育の反省も込めて開発したのが、デイビッド・セイン英語ジムです。英会話は目的ではなく手段。社会に出て活躍するための手段なのです」

「『デイビッド・セイン』と立ち上げた経緯を教えてください。」

「セインさんも悩んでおられたようです。ご自身でも英会話講師をされていましたが、思うようなネイティブ英会話を身に付けてもらうことができない。いくら英語関連の執筆をしても、伝えることができない、というジレンマがあったようです。」

日本には世界を助けることができる人材がいっぱいいるのに、その壁になっているのが、たかが言語。『使える英語』と『英語が話せる人材』をなんとか育てることはできないか、と塾サイドからの苦悩と、

英会話サイドからの苦悩が一致したんですね。それで、二分化されている受験英語とネイティブ英会話を両立させたものをつくらう、とスタートしたのです」

「小学生から大人まで、学校や企業でも必要となるコンテンツに仕上がりましたね。」

「そうです。デイビッド・セイン英語ジムは、学校教育機関だけではなく企業だって、小学生から大人まで、世界中にいる日本人の方々にはじめてもらいたいコンテンツです。だから、基本的に場所要らず、先生要らず、やりたいときに隙間時間でできるコンテンツにしました。本来、塾の先生の都合に合わせて、何曜日何時に学習するというのは、塾の勝手な都合です。」

教材開発にあたっては大変な費用と労力がかかりましたが、厳しい社会状況の中ですから、とにかく授業

料を安く設定しました。スクール会員なら毎日通っても月額8800円(税込)。ご自宅で学習されるホーム会員なら月額5500円(税込)です。」

「これまで英会話を修得するために、いろんなメソッドを試して挫折した方も、何を選んだらいいかわからない方も多いと思います。そういう方への一つの答えがこれ。正解かどうかはまだわからないけど、やってムダになることは決してありません」

私塾だからこそ、真の学力を養い、生きた教育が実践できる。

「全国小・中学生学力カップ」をはじめたきっかけは何ですか。」

「きっかけは、サッカーのワールドカップなんです。サッカーのように、学力の分野でも子どもたちの意欲が喚起できるようなオン

リーワンの大会ができないものかと。画一的な偏差値や受験の可否を判定する学力テストに対する、一つのアンチテーゼですね。」

学ぶことは、本来楽しいこと。問題に挑み、そしてそれを解決する喜びは、向上心や知的好奇心に基づいた人類普遍のもので、ところが、従来の学力テストでは、常に数値や合否の結果が問われるため、子どもたちには大きなプレッシャーになります。クイズやパズル形式の遊び心あふれる問題を織り交ぜることで、子どもたちのチャレンジ精神や知的能力を刺激し、『真の学力』を子どもたちに身に付けてもらうことができるのではないかと考えたのです。まさに、フリーハンドの私塾だからこそできることだと思います」

学力カップ画像

「その想いは、eisu



という名称にも込められていますね。

「はい。『e』はearth、文字の色はグリーン。そこには、地球にやさしく人にやさしく、思いやりのある豊かな人格を育みたいという思いが込められています。『i』は自分自身のiで、自学自習の姿勢を表現してパッションの金赤でカラーリングしています。『s』はskyの空色で、目標に向かって飛躍するチャレンジ精神を。『u』はuniverseでブルー、宇宙のように人間の頭脳もまた無限の可能性を秘めて

人生はロマン。自身でフリーハンドに描いていきたい。

塾を開業されて48年。

いることを表しています。

『e』『i』『s』『u』に込めた豊かな人格、自学自習の姿勢、チャレンジ精神、さまざまな潜在能力の4つの大切な力を育みながら、『個』への対応を指導理念として、進学指導や受験指導という学習塾の枠を超え、私塾だからこそできる“生きた教育”を実践し続けます」

大していき、今では三重に55校舎、愛知に7校舎、静岡に1校舎、東京に10校舎、計73校舎になり、生徒数も2万名を超えています。異業種を含め関連施設も京都、滋賀、三重、長野、静岡、神奈川、東京に計18ヶ所と拡がっています」

「私は、すでに敷かれた軌道の上を走るのはいやなんです。その先に、どんなに光り輝くサクセスストーリーがあったとしても、人生は冒険とロマン。自分自身でフリーハンドで描いていきたい。人間は生まれて、いつか死がくることは歴然たる事実。そう思ったら何も怖いものはない。一度しかない

—— 当時はまだ塾が少なかった時代。山本代表をそこまで熱くさせたものは何

なぜ、塾をはじめようと思ったのですか。

「塾が一番やりがいを感じたからです。

塾をはじめめる前、私は早稲田大学を卒業して、商社に入社しました。組織に入って毎日、上司の生活を見ていたら、人生の先が読めてしまったのです。『自分たちがう、組織にいる人間じゃない』と。

まだベンチャーなんて言葉がなかったころ。『自分で何かをはじめたい』と、入社して一年足らずで商社を辞めました。いったん裸になって、考えたかったんですね。それで郷里の三重県鈴鹿市に戻りましたら、私は柔道3段で、英語教師の免許を持っていたものから『教師をしないか』というんな高校から熱心なお誘いを受けました。当時は高校生急増期で私立高校が次々に誕生していた時代。けっきょく3年契約で高校の教師を務めることに

人生なのに、失敗を恐れて冒険しなかつたら、つまらないですよ。

『人生楽事』。人生は楽しむものです。人に迷惑をかけず、自分のできる範囲で精いっぱい努力していけば、1回の人生で味わい深い人生が楽しめます。そして『生涯青春』。心はいつも青春なんです。常にフレッシュでありたい。たえず初々しい状態で、高い志

—— 若い経営者に伝えたいことはありますか。

「塾の目的は、成績を向上させ、受験に合格させるのはもちろんだけど、受験に合格して社会に出たときに、社会で役立つ人材を育てることが究極の目的。その視点から考えると、将来の肥やしになるようなコンテンツ、顧客のために新しい何かをやり続けてほしいと思うのです。現状に踏みとどまる者はやがて落伍者になる。根本は変えてはいけないけれ

前にもこだわりました。駅前だと通学に便利なので、広い地域から多くの生徒が集まってくれます。そうすると、生徒同士の競争原理が働き、お互いに切磋琢磨して塾が活気づくのですね。それから鈴鹿市内だけではなく、県庁所在地の津市、工業・商業のまち四日市市と、三重県全域に規模を拡

でも、『やっぱり違う』と。もっと自由な発想でできる私教育へと脱皮することを決めたんです。なんとか350万円を調達して、駅前に150坪の土地を購入し、教会風のアカデミックな雰囲気のを建てました。土地が安い地方からできたのですが、場所は駅

と、信念を貫く情熱を限りなく持ち続けられ、自分が思い描いた夢は実現します。未来を担う子どもたちのために、塾としてできるすべてのことをやっています。それが私の信念です」



経営の根幹は、顧客の創造。

「eisuの基本精神の一つに『秩序ある混沌』というのがあります。混沌というのはカオスではなく、ハーモニーを意味しています。社員一人ひとりが限らない発展を志向する姿勢をもつてはじめて、企業もまた継続発展をしていく。逆に、企業が目標に向かって限らない発展を志向してはじめて、社員の発展の方向も定まります。社員一人ひとりの発する遠心力と、組織としての求心力とのバランスがとれるとき、いいチーム、いいハーモニーが生まれるのだと思います」

—— その考えは社員教育にも反映されているのですか。

「eisuの基本精神の一つに『秩序ある混沌』というのがあります。混沌というのはカオスではなく、ハーモニーを意味しています。社員一人ひとりが限らない発展を志向する姿勢をもつてはじめて、企業もまた継続発展をしていく。逆に、企業が目標に向かって限らない発展を志向してはじめて、社員の発展の方向も定まります。社員一人ひとりの発する遠心力と、組織としての求心力とのバランスがとれるとき、いいチーム、いいハーモニーが生まれるのだと思います」

